

みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

■ 14時30分から15時30分
■ 展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

10日
(日曜日)

話者：菅瀬晶子（国立民族学博物館 助教）
話題：それでも豚を食べる人びと
ーパレスチナ・イスラエルにおける豚肉食ー
会場：本館展示場（ナビひろば）
内容：豚肉食を禁忌とするイスラームやユダヤ教が多数派のこの地で、「あえて」豚肉食を食べる人びとは。写真を多数お見せしながら、ご紹介いたします。



パレスチナ自治区の養豚場

24日
(日曜日)

話者：齋藤玲子（国立民族学博物館 助教）
話題：アイヌの工芸について
会場：本館展示場（ナビひろば）
内容：アイヌの民具は機能的であるとともに、手のこんだ文様が施されたものも多くあります。アチックミュージアムなどの所蔵品のなかにも、美的にすぐれた生活用具が含まれています。こうした古い資料を活かした、近年の工芸に関する取り組みについてお話しします。



樹皮製糸で織られた着物（民博所蔵品 特別展展示中 H0018717）

編集後記

とにかく集めまくるだけ、というコレクターは結構いる。そして世の「コレクション」の多くは個人の愉しみの域を出ない。集めた人にとってはお宝でも、その人が故人となればゴミの山として処分されてしまうことも往々にしてある。そもそもが高価な美術品でもないアチック・コレクションが、敬三の没後50年たってもお宝であり続けている、ということはすごいことなのだと思う。

個人の収集欲あるいは自己顕示欲を満足させるためのコレクションだったとしたら、今のような形では残っていないなかっただろう。敬三がアチックに託した「ティームワークのハーモニアスデヴェロープメント（調和的な発展）」という理想が根本にあり、それを引き継ぐ仲間たちがいたからこそ、半世紀たってもこれらのモノは活きている。仲間と協同してモノを集め、世のために活用する。これぞ博物館の理想的な在り方であろう。扇の要のように、屋根裏部屋の仲間たちをまとめ、日本の民俗学に大きな追風を送った敬三の、この精神を忘れてはならない。（山中由里子）

●表紙 絵馬。願いを込めて、さまざまな絵が描かれる。
標本番号：H0015069 ほか
地域：日本 アチックミュージアム・コレクション

次号の予告

特集
稲作以後

月刊みんなく 2013年11月号

第37巻第11号通巻第434号 2013年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂
編集委員 山中由里子（編集長） 櫻永真佐夫 久保正敏
庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 野林厚志

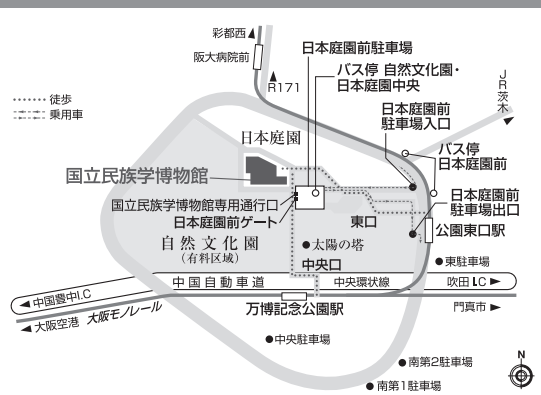
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一欒
制作・協力 一般財団法人 千里文化財団
印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

1年間みんなくに何度でも入館できる「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。
詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなくフェイスブック
<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

